

【明治グループ長期環境ビジョン発表会】 質疑応答概要

※主な質疑応答をご紹介します。

<日 時>	2021年3月1日(月) 15:00 ~ 16:30
<出席者>	明治ホールディングス(株) ・代表取締役社長 CEO 川村 和夫 ・取締役専務執行役員CSO 古田 純 ・執行役員サステナビリティ推進部長 松岡 伸次

Q1: ESG 投資が利益に与える影響はどの程度ですか。また、300 億円の投資枠を引き上げる可能性はありますか。

A1: ESG 投資枠 300 億円は、CO2 の削減や水リスクへの対応等のコスト削減効果が見込まれる環境関連の設備投資に使用します。CO2 排出量削減やプラスチック使用量削減は投資額の半分以上は回収できると考えています。一方、脱フロンや水リスク関係は金額的なメリットが出しづらく、社会的責任を果たすという面が大きいです。投資の全てを回収するのは難しいですが、必要な環境関連の設備投資は続けていきたいと思えます。

300 億円の投資枠は設定しましたが、環境への取り組みが加速化する中で、投資枠にとらわれることなく取り組んでいきたいです。

Q2: 環境ビジョンの取り組みはマーケティング戦略でプラスになると考えていますか。

A2: 社会への貢献として、当社は「栄養報国」の創業精神のもと、これまで乳幼児、高齢者、スポーツをする方など、様々な人々に栄養面で貢献すべく取り組んできました。また、コロナ禍において社会課題は大きなビジネスシーズになっています。例えば、ワクチン事業は感染症予防という社会課題に重要な役割を果たしています。

会社全体として社会課題への理解が深まるということは、結果的に社会課題解決につながる商品に反映されていくと思えます。長期的に見て、商品の差別化やマーケティングには、こうした取り組みが重要であると考えます。

Q3: 4 つの活動ドメイン(気候変動、水資源、資源循環、汚染防止)について、それぞれの投資額を教えてください。

A3: 2023 年までの環境に関わる投資額については、新たな中期経営計画において試算していますが、2024 年度以降はまだ不確定要素が多く社外に開示できる状況にありません。4 つの活動ドメインへの投資額については、5 月の中期経営計画発表時に改めてご説明したいと思えます。

Q4:CO2 削減目標(2023 年度 23%以上削減、2030 年度 40%以上削減※2015 年度比)に対する現在の進捗状況について教えてください。

A4:2020 年度時点では、2015 年度比で約 16%削減しています。今後も、太陽光パネル設置や再生可能エネルギーの購入などによってカーボンニュートラルを目指す取り組みを加速させていきます。

Q5:水使用量削減目標(2023 年度 15%以上削減、2030 年度 50%以上削減※2017 年度比)に対する現在の進捗状況について教えてください。

A5:2020 年度時点では、2017 年度比で約 6%削減しています。水の削減は難易度が高いことから、本社内で水削減のプロジェクトチームを新たに立ち上げて様々な施策を検討しています。

Q6:環境ビジョンに基づく活動は売上成長につながりますか。また、今回の活動は主にどのようなニーズに応えることになりますか。

A6:まずは社会課題への取り組みが、コスト負担が増えるだけで収益を圧迫する状況になることは避けねばなりません。むしろ、社会課題の解決がビジネスにも結び付く状況を作り、利益にも貢献していくことが重要です。明治グループとしては、こうした利益につながる取り組みを日本のみならずグローバルで推進していくつもりです。

また、最近では、お客様の環境に対する意識が高まっていると感じています。環境への取り組みがお客様の商品購買へ影響するリスクもあります。はっきりと目には見えませんが、環境への取り組みはビジネス面にも必ずプラスに働くと考えています。

Q7:プラスチックの使用量削減について、容器包装軽量化や再利用のために具体的にどのような取り組みをしていますか。

A7:プロバイオの小型ペットボトルは、発売当初の 13g から 8.7g への軽量化を順次進めています。更なる軽量化を検討しています。また再利用については、プロバイオの小型ペットボトルをインライン成形する際に、どうしても廃棄となってしまうプラスチックが全体の3%程度発生します。こうした廃棄プラスチックを再利用する設備の導入も推進していきます。

Q8:どの程度まで包装をプラスチックから紙に切り替えていきますか。

A8:現時点の技術では全てを紙に切り替えるのは難しいです。遮光性や耐久性といった商品の品質を担保するため技術的な解決策を待たなければなりません。そこで、まずは品質に影響がないと確認されたストローや菓子の包装等を紙あるいはバイオマスプラスチックに順次切り替えていきます。

Q9:環境に関する取り組みをどのように生活者にアピールしていきますか。

A9:第一にはしっかりと課題解決に取り組むことが大事です。併せて、独りよがりにならないよう、明治グループとしての取り組みをお客様や投資家等のステークホルダーの皆様へ開示し、対話していくことが実際の取り組みと同じくらい重要と考えています。これまでも統合報告書で非財務情報を網羅的に開示してきましたが、財務的な情報との関係性も開示していくつもりです。開示ルールはこれから整備されていくと思いますので、我々も積極的に対応し開示情報の充実に努めます。

Q10:新型コロナウイルスによってサステナビリティへの関心が高まっていると感じますか。

A10:この2、3年で急速にサステナビリティ意識が高まってきたと感じています。例えば、メディアでは毎日のようにサステナビリティや ESG に関連する報道がなされています。また、アメリカがパリ協定に復帰し、日本政府も2050年のカーボンニュートラルを宣言しました。

日本においても消費者のエシカル消費への関心が高まっており、サステナビリティ意識の高まりとともにこの傾向はますます強まると見えています。

以上